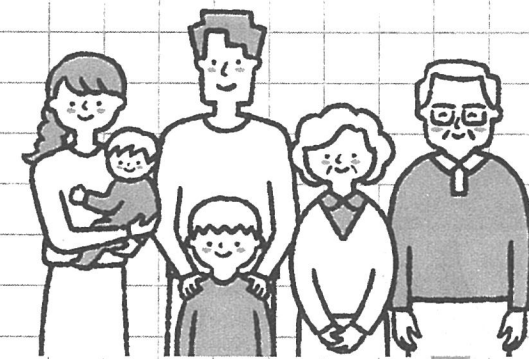




鯨川村 議会報告会



2025

ご かい ほう こと かい

みなさまのリアルなご意見をお聞かせください。

鯨川村議会議員9名が、これまで一般質問した内容等を皆様にご報告いたします。

また、地域の皆さんが日頃から感じている村や地域の課題、お困りごとなどをお聞かせください。

これからの鯨川村について沢山の意見を共有できる機会にできればと考えています。

皆さんのご参加をお待ちしています。

2025

7.24 木

18:30 ▶ 20:30

会場

鯨川村公民館
大集会室



※鯨川村ホームページから「議会だより」
「議会会議録」等が確認できます。

議会報告会 次第

- 開 会
- 議長あいさつ
- 活動報告

前田 武久

議席番号1番	窪木	浩一
議席番号2番	本郷	弘義
議席番号3番	青戸	義之
議席番号5番	森田	重男
議席番号6番	森	隆之
議席番号7番	遠藤	貴人
議席番号8番	北條	利雄
議席番号9番	緑川	茂

●意見交換会

●閉 会

主催：鯨川村議会 お問い合わせ：鯨川村議会事務局（0247-49-3115）



窪木 浩一

問 公立学校等複合施設整備事業の必要性は

人口減少・少子高齢化の進行を鑑み、莫大な費用の本事業に不安を感じる。村長には、本事業に投資した際、他の事業や村民生活に支障はないのかを問う。教育長には、どのような学習効果や経済効果が見込めるか、事業のメリットと将来性を問う。

答 耐震基準・構造上も建て替えは必要

- 村 長…事業進捗や財政状況を常に注視し、事業の設計・見直し・工事内容を精査し、村の財政運営に過度な負担が掛からない様に努める。
- 教育長…教育活動を目指実態に合わせ、独自の教育課程化を編成、地域に根差した教育が可能。教科担任制の導入や合同授業の実施、異学年交流活動、地域保護者との連携強化が見込める。

問 森林の伐採保全管理の重要性は

伐採されている森林の把握や届出、植林造林の再生計画は

答 適正に指導管理をしている

伐採面積や所有者、業者は届書により管理している。また、計画は鮫川村森林整備計画に適合している。



本郷 弘義



青戸 義之

問 室内ゲートボール場の施設整備を

ゲートボールは体力的に負担が少なく、考える場面が多く、脳の活性化になり認知症の予防にも有効である。健康寿命を延ばす取り組みの一環として雨天、冬期間でも年間を通して使用できる施設として既存の施設を利用し整備を

答 多方面から考慮し検討していく

高齢化に伴い社会全体で交流活動やスポーツ、健康教室などを通じ健康寿命を延ばすことは大切な住民サービスである。施設の利用の実態や今後の活用の見通し、見込みなどを考慮し、慎重に検討していく。

問 畜産農家の振興対策は

飼料、資材の高騰、家畜市場の価格の低迷により経営が困難な状況のため、村独自の支援策は

答 農山漁村活性化基金を活用した機械の導入を図る

自給飼料の生産の増加や農機具マッチングでの機械の導入などにより生産コストの低減、農山漁村活性化基金を活用した機械の導入により労働力の低減につながる事業の推進を図り、畜産経営が持続可能となるよう支援していく



森田 重男

鮫川村議員活動報告

2025



森 隆之

問 村所有施設の再利用や処分計画は

歴史民俗資料館、山王の里、旧富田小学校、旧青生野小学校、「ほっとはうす・さめがわ」の今後の再利用計画、または処分計画は

答 基本的に処分する方向で考えている

歴史民俗資料館は、移転を検討。山王の里は、指定管理者を探す。旧富田小学校は、「手まめ館」の倉庫として利用して当面継続して利用する。「ほっとはうす・さめがわ」は、補助事業の処分制限期間の経過をもって令和10年度以降に処分する計画。旧青生野小学校は、再度活用方法について検討する。

問 健康意識の高い村民を讃える施策はできないか

日々の心がけや健康意識の高さによって、国民健康保険を利用されない村民もいる。医療制度の利用を制限するものではないが、そういった村民を讃えるような施策ができないか。

答 健康増進になるための、生きがいを検討したい。

遠藤 貴人



北條 利雄

問 生成AI(人口知能)の行政と教育への活用は

行政課題に対応するため生成AIを導入するメリットは大きい、限られたリソース(供給源・資源・財源)を新たな課題解決に振り向けることができる。リスクをどう想定し、どのように対処していくべきか。

答 各分野において検討をすすめる

- 村 長…人とAIが共存する社会形成が必須だと考える。行政分野においても急激に活用が進んでおり、業務改善を進め、各分野において住民向けに実装する生成AIサービスの検討をすすめる。
- 教育長…学校現場は活用のメリットがある一方、様々な懸念も指摘されている。教育活動そのものに関わる問題も含んでおり、利活用については国の対応を見極める。

問 遊休農地の現状と増加防止対策は

農業従事者の高齢化と担い手不足等により、遊休農地が年々増えていく傾向となっているが、過去10年間で非農地となった面積はいくらか。
また、今後遊休農地増加防止を図るための対策は。

答 農業担い手応援事業にて支援する

令和5年度までの10年間で非農地化したのは84ヘクタールである。担い手不足の対策として、「未来へつなぐ多様な担い手応援事業」を創設し機械導入の補助や農業参入への支援を行っている。また、中山間地域等直接支払制度も有効な手段である。



緑川 茂